



大学入試改革を考える

—時間認識と空間認識をバランスよく統合した教育実践—

関西国際大学 客員教授
神戸山手女子中学校高等学校 校長 **平井正朗**



2022年度の入学生から全面实施される新学習指導要領における高校地歴では「歴史総合」と「地理総合」が必修科目（各2単位）になります。その上で、歴史や地理を発展的に学習する選択科目として「日本史探究」「世界史探究」「地理探究」（各3単位）が設定されています。

「歴史総合」は日本史と世界史を融合した科目であり、世界の中の日本を広い視野から捉えて、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を学習します。今回の改訂は「時間認識と空間認識をバランスよく統合する人材育成を目指す科目構成」が検討された結果、時間軸を学習の基軸とする「歴史総合」と空間軸を学習の基軸とする「地理総合」を必修科目とし、それぞれが

相互補完的な役割を果たしながら、地理歴史科の目標を達成することをめざしています。

日本学術会議は「歴史的思考力を育てる大学入試のあり方について」の中で、大学入試共通テストや個別大学の歴史系の入試科目を「歴史総合・日本史探究」「歴史総合・世界史探究」とするよう提言しています。（地理系は「地理総合・地理探究」。提言では、科目再編の目的として「暗記重視の知識詰め込み型から思考力重視の歴史教育への移行というねらいが込められている」とあり、同時に、2006年の「世界史」未履修問題を取り上げ、その背景として大学入試の影響を指摘しています。提言では、歴史総合を歴史系の入試科目に組み込むことによって、高校での歴史教育と大学入試を一体的に進めることを求めています。

先般、2025年に実施される大学入試共通テストにおける新科目のサンプル問題が公表されました。学習指導要領の改定を踏まえ、高校の社会においては、教科書の知識を覚えるだけでなく、具体的なテーマについて複数の資料を読み解き、思考力や探究力を重

視するという方針が設問に反映されています。

「歴史総合」では、「自由」に関する四つの演説や文章から地域や時期によって自由の概念が異なることを読み取る問題や、オスマン帝国憲法と大日本帝国憲法、清でつくられた憲法原案の共通点や違いを比較してアジア諸国が立憲制をどう取り入れたかを読み解く問題が出題。歴史上の流れだけでなく、地域や国を超えて時代を考察する教科横断的な点が浮き彫りにされているのが特徴です。問6では問1～5において示された資料から主題を類推させ、「さらに追求するための資料」を考えさせるなど、センター試験や共通テストで見られなかった設問となつています。これまでの日本史や世界史という暗記科目と見なされてきた感がありますが、活動を中心とした「社会的現象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動」にすることで本物の学びを提供しようとしています。

「地理総合」では、世界地図やグラフなどを示し、地球的な課題について多面的に考える力が求められています。

第1問は世界の人口に関する問題、第2問は自然災害に対する備えと復興のあり方について。津波対策として集落を高台に移転させることについて考えさせています。第3問は「地理探究」への接続を意識し、市町村合併が行われた新潟県上越市を題材に、都市の空洞化問題、合併による過疎化によって起こる問題などを考察、持続可能な日本の国土のあり方を探究する力の測定に結びつけています。獲りたい生徒像がメッセージとして伝わってきます。

地理情報システム（GIS）等を活用した「バーチャルフィールドワーク」といったICTによる授業例や他教科との連携を通して背景知識を強化していく必要があります。これまで地理は、様々な資料から読み解く問題が多かったものの、サンプル問題はその傾向がより強まっています。「地理B」同様、9択の選択問題や3つの組み合わせをすべて理解している必要がある問題など、本質的な理解が問われる問題が散見されました。

法や政治などの幅広いテーマを扱う「公共」では、合意形成のあり方について問う設問があり、結論が一つでな

く、正答が3パターンあるものがありました。第1問は食品ロスという問題に対する探究学習、第2問は高校生の模擬国会の開催活動をテーマに財務相の立場などから考えさせる問題。第3問はSDGsから課題を選び、グループで探究学習するというシチュエーションでしたが、どれも「主体的・対話的で深い学び」を意識したものになっています。3教科の底流にあるのは「考える力」に他なりません。本校でもすべての教科において、思考力・判断力・表現力の育成に向けた取り組み

を加速させていきたいと思っています。令和の時代、日本の成長を牽引し、豊かにするグローバル戦略は、先端技術を駆使したイノベーションに向けて、チャレンジする領域・分野をどのようにインセンティブをつけて創っていくかということ。自動化できる仕事はAIに任せ、個々のアイデアを具現化し、より付加価値を高めるために、探究し、そこから何が出てくるか見極めて前に進むスピリッツを有する方が求められる人物像であり、新しい文化創造に寄与するのです。

英文法嫌いの生徒が
みるみる変わる！

平井校長の 英語の仕組み 探究講座

神戸山手女子中学校高等学校校長・関西国際大学客員教授
平井正朗 著
HIRAI Masahiko

高校生・教育関係者から大人気の
英文法ブログを書籍化！

祝！
60万
PV達成！

文法を根底から理解でき、
4技能をバランスよく
教えていただいた、あの充実感を
もう一度！（高校英語教員）

卒業生からの声！

三省堂